



# 市長コラム

## ～未来への架け橋～

Vol.3

市民の皆さま、こんにちは。  
年度末を迎え、卒業シーズン、そして新入学やご就職など新たなスタートを間近に控えた季節となりました。

例年であれば、希望と期待に胸を膨らませる時期ですが、今年は様々な場面で行動が制限され、皆さまも多くの不安を抱えながらお過ごしのことと思います。

昨年1月に日本国内で初めて新型コロナウイルス感染症の感染が確認され、すでに1年2カ月が経過しましたが、様々な自粛を強いられる生活は、現在もなお続いています。

今年の1月から2月にかけては、五所川原保健所管内でも複数の感染が確認されましたが、恐れるべきは、感染した人や地域ではなく、新型コロナウイルスです。誤った認識や情報によって、感染者やその家族、医療従事者、首都圏等から来られた方などが誹謗中傷や不当な扱いなどを受けることがないように、今しばらくの間、他者を思いやる意志を持って、冷静な判断と行動をお願いいたします。また、感染を拡大させないためにも、ぜひ、市民の皆さまにはマスク着用、手指消毒、3密回避など感染対策を引き続き実践していただきますとともに、県外との往来に際しては細心の注意を払ってくださるよう改めてお願いいたします。

さて、このほど令和3年度当初予算案を編成したところですが、予算規模としては過去10年間において最小となりました。予算編成に当たっては、コロナ禍にある社会情勢を受けて、「今、何が必要か」

「何を変えるべきか」を熟慮しながら、私自身、これまでにない厳しい姿勢で取り組みました。

主な施策の柱として「感染症対策」「市民生活や地域経済への支援」および「子育て支援施策の充実」を掲げており、これまでの既存事業を抜本的に見直し、新規および拡充する事業は必要最小限にとどめながら、前例や慣例にとらわれず、今まさに必要なものを見極め、感染拡大の影響で中止となる事業については極力凍結に踏み切るなど、この難局を乗り越えるための特別な予算としています。

晋書という中国の歴史書の中に「朝聞夕改（ちょうもんせきかい）」という言葉があります。これは、朝に聞いて学んだことでも、気づいたことがあれば夕方には改めるという意味ですが、この言葉のとおり、市民の皆さまをはじめ周囲の声に耳を傾け、改めるべきところは改め、業務改善を超えた業務改革を断行し、常に柔軟な発想と市民目線を持って市政運営に当たりたいと思っています。



五所川原商工会議所の山崎会頭が  
経済対策等に係る緊急要望書を提出

## 今月号の表紙

〔金木ジャンプクラブの皆さん〕

今月号の表紙を元気いっぱい飾ってくれたのは、嘉瀬スキー場で活動している金木ジャンプクラブの皆さんです。クラブの登録児童数は小学1～6年生の11人で、金木小学校のほか、弘前市や大鰐町からも参加しています。現在、県内で小学生にスキージャンプを教えているのは同クラブのみで、週に3回練習を行っています（令和2年1月13日現在）。

スキースポーツの競技人口が減少する中で、ヘッドコーチの古川純一さんは「スキージャンプの競技人口を増やすことが目標。小学校の時にクラブでジャンプの基礎や楽しさを覚えてもらい、中学校や高校でもジャンプを続けて、世界にはばたく選手になって欲しい」と期待を込めて話しています。



金木ジャンプクラブで指導を行う古川さん